

第7回JR肥薩線検討会議

■日時：令和6年4月3日（水）15：00～15：45

■場所：熊本県防災センター 2階 災害対策本部会議室

■概要

○冒頭、国土交通省 岡野審議官、熊本県 田嶋副知事から挨拶があり、配付資料に沿って説明の後、意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

構成員 岡野審議官

国土交通省鉄道局の岡野でございます。本日はお忙しいところ、また足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。これまでの検討会議におきましては、鉄道局からは技術審議官の岸谷が参加しておりましたが、検討のフェーズが変わりつつあるということから、本年度からは私の方が参加することとなりましたのでよろしくお願いいたします。

第7回JR肥薩線検討会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。令和4年3月に第1回の検討会議を開催してから関係者間で議論を重ねてまいりました。昨年12月第5回の検討会議において、熊本県から鉄道で復旧させる場合の「復興方針（案）」が示されました。それを受けて今年の2月第6回の検討会議では、JR九州の方から熊本県の復興方針（案）に対する考えが示されたところでございます。本日は前回JR九州から示された考え方を受けまして、熊本県の方から肥薩線のマイレール意識の醸成に向けた日常利用の創出について、具体的な利用促進策等がご説明されると聞いております。本日まで、熊本県、JR九州、国で全6回にわたり検討を重ねてまいりました。これまでの熱心なご議論の結果、関係者全員で一定の方向に進むための論点が整理されつつあると考えてございます。

本日の会合におきまして、出席の皆様方から忌憚のないご意見、活発なご議論をいただきまして、本日の会合が有意義なものとなることを期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

構成員 田嶋副知事

本日は年度初めのお忙しい中、本省から岡野審議官、また国土交通省の森戸九州地方整備局長、吉永九州運輸局長、JR九州から松下総合企画本部長に出席いただきまして誠にありがとうございます。

令和4年3月に第1回の検討会議を開催し、国・県・JR九州の三者で肥薩線復旧に向けた検討を開始してから、ちょうど2年が経過しました。これまでの協議を振り返りますと、令和4年5月の第2回の検討会議では九州地方整備局から早々に河川、道路による事業間連携、それによる破格の財政支援を表明していただきました。また、JR九州にとって、過去最大という多額の災害復旧については、国の提案により一気に検討が加速できたのではないかと思います。さらに令和4年12月の第3回の検討会議では、JR九州から肥薩線について検討すべき課題として、6つの論点を提示していただきました。この課題に答えるべく、国のご支援をいただきながら県として早急にJR肥薩線鉄道復旧調査検討事業に着手し、令和5年12月には地元が一丸となってJR肥薩線の復興方針をとりまとめました。

今、私たち地方自治体にはローカル鉄道の運営を事業者任せにせず、地方全体として関係者の連携・共同により地域の重要な交通インフラ基盤として当事者意識を持って利活用に取り組んで行くことが求められております。それを具体的に示したものが今回の復興方針（案）だと捉えております。

こうした中、今年2月13日に開催した前回の会議におきましては、JR九州から復興方針について、「観光による振興だけでなく沿線の方々の肥薩線に対するマイルール意識の醸成による日常利用、普段使いの創出の2本の柱として考える必要がある。」とのご意見をいただきました。

これを受け、県としても早速検討を深め、2月28日に第6回の再生協議会を開催し、肥薩線のこれまでの弱点であった日常利用の創出に向けた取組みについて、改めて地元の12市町村と議論を交わし、地元の総意・決意をとりまとめることができました。これにつきましては、本日もご報告させていただきます。是非JR九州におかれましては、我々の肥薩線の復旧にかける強い思い、そして将来に向かって持続可能性のある鉄道に向けた私たちの提案をしっかりと受け止めていただきご決断を賜りたいと思っております。本日は一歩前に進む会議と捉えておりますので、よろしく願いいたします。

○資料1に沿って熊本県より説明

構成員 松下九州旅客鉄道株式会社総合企画本部長

どうもありがとうございました。前回のJR肥薩線検討会議におきまして、当社からお示しいたしました、「これまでのJR肥薩線検討会議を受けての当社JR九州の考え」において、やはり鉄道の持続性を高めるためには観光振興

だけではなく沿線の方々の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用の創出が必要であるということ述べさせていただいたところです。これに対して、先ほど熊本県と地元自治体が一体となってマイレール意識の醸成による日常利用の創出についてとりまとめていただいたことに対して感謝を申し上げたいと思います。地域の方々のマイレール意識を醸成していくための決意と具体策について整理をしていただいたものと受け止め、内容につきまして、私は承知をいたしました。ただ、この件でございますが、やはり当社にとっては大変大きな課題でございます。ここで当社社長の判断を仰ぎたいと考えております。

(一旦離席)

社長にも判断を仰いだ結果、沿線の方々の肥薩線に対するマイレール意識の醸成による日常利用の創出の内容につきまして承知をしたということでございますので、ご報告させていただきます。

○資料2に沿ってJR九州より説明

構成員 松下九州旅客鉄道株式会社総合企画本部長

なお、項番4（復旧や運営のあり方、数値目標の設定・管理等について誠意を持って協議を行い、可能な限り具体化する）については、具体的には熊本県と次に申し上げるような内容を整理しております。

- ・ 営業運転再開までに営業運転再開後 10 年間における各年度の収支目標を設定し、毎年度その実績の評価・検証を行うとともに、目標と実績とが乖離した場合の対応について最終合意前までに具体化する
- ・ 営業運転再開後は5か年毎に運営状況を検証し、検証結果に基づき運営のあり方の協議を行う
- ・ 復旧にあたっては駅の設置の是非、新造車両の費用等のあり方などについて議論を行う

今後これらの内容について深度化していき、2024年度末に鉄道復旧について最終合意することを目指してまいります。

第6回肥薩線検討会議以降の事務レベルの協議及び蒲島熊本県知事と当社社長古宮での論点整理を経て、本日の会議において、JR肥薩線復興方針（案）に加え、沿線の方々のマイレール意識の醸成による日常利用創出に向

けて熊本県と地元自治体が一体となって取り組んでいかれること、また、持続可能性をさらに高めるために整理すべき事項について、熊本県と合意できることを確認しました。

これにより、以前からお示しいただいていた河川、道路との事業間連携並びに鉄道軌道整備法の補助による復旧費の圧縮に加えて、持続可能性を高める部分でも鉄道事業者として決断できる状況となったと考えています。

そのため、本会議においてJR九州として肥薩線（八代～人吉間）について、鉄道で復旧する方向性について合意したいと思えます。なお、今後、残る肥薩線（人吉～吉松間）についても協議をよろしくお願いいたします。

構成員 田嶋副知事

只今、松下常務から古宮社長の承諾を得た上で、鉄道での復旧という方向性については合意するという発言をいただきました。地元の悲願であった肥薩線の鉄道復旧への道筋をつけることができ、地域流域住民の皆様の良い報告ができると思えます。この大変な決断をいただいたJR九州の皆様には心から感謝申し上げます。これまで申し上げてきたように球磨川流域の存続、地域の持続可能性を担保するためには、肥薩線が不可欠という思いで取り組んでまいりました。このような中で地元とJR九州とが一体となって、全力で鉄道復旧と地域再生を完遂する覚悟で頑張っていきたいと思えます。岡野大臣官房審議官、森戸九州地方整備局長、吉永九州運輸局長、この合意も国の強力なご支援がなければ実現できなかつたと思えます。本当にありがとうございます。ただ、再開までの道のりは、概算でも10年、非常に長い時間がかかります。その間、地域の皆様が愛する鉄道であるようにしっかり頑張って、そして一日も早く再開させたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

構成員 吉永九州運輸局長

九州運輸局の吉永でございます。本日、熊本県からマイレール意識の醸成による日常利用の創出にも取り組んでいくという決意が、地域の総意として示されまして、熊本県とJR九州の両者が鉄道での復旧を目指す方向性で合意できたことは、大変意義深く、九州運輸局としましても重く受け止め尊重したいと思えます。ここに至るまでの関係皆様の努力に改めて敬意を表したいと思います。さらに最終合意を目指し、鉄道復旧の持続可能性を高めるために関係者間において検討が深度化しますことを期待したいと思います。検討の深度化にあたりましては、九州運輸局としても観光の振興、フィーダー交通を含めた地域交通のあり方につきまして、本省鉄道局や観光庁とも連携の上引き

続き協力を申し上げたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

構成員 森戸九州地方整備局長

本日、先ほどお話しがありましたように、JR九州から方向性について合意があったところでございます。私どもとしては引き続き災害復旧としての道路・河川事業について、まずは復旧工事を進めるものでありますし、また従前から申し上げておりますとおり、ご協力できる範囲につきましては最大限のご協力をさせていただきたいということを引き続きさせていただくことが大事かと思っております。おおむね一年後を目処に合意を目指していくということでございますので、具体的な調整が私どもにも今後で出てくると思っております。是非色々な情報共有をいただきながら最終合意に向けた取組に対して、ご協力をさせていただくつもりでございます。引き続きよろしく願いいたします。

構成員 岡野審議官

改めまして、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、また有意義なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。本日の会議では、熊本県からマイレール意識の醸成による日常利用の創出について、沿線自治体と認識を共有し、日常利用の位置づけや具体的な利用促進策が示され、観光振興とあわせた二本柱で肥薩線復興に取り組んでいくと報告がありました。これを受けてJR九州からは、鉄道での復旧を目指すという方向性について、県とおおむね認識を共有できたという発言であると認識しております。熊本県とJR九州の両者が鉄道での復旧を目指すという方向性で一致されたということは、大変意義深いものだと思っております。合意にたどり着くまでの関係者の熱意とご尽力に改めて敬意を表したいと思います。ありがとうございました。今後は肥薩線の復旧、区間の持続可能性を高めるための目標の設定や復興方針に示された具体的な施策の実行など、関係者間で議論を深度化させていく必要があると思っております。国土交通省と致しましては、鉄道での復旧に向けて熊本県、JR九州の両者が納得する形で今年度末までに合意ができるように、引き続きしっかりとサポートしてまいりたいと思っております。

事務局（国土交通省）

最後に、この会議の後に予定されております記者ブリーフィングの内容についてご説明します。まず、第6回検討会議にて、JR九州より示された考えを受けて、本日熊本県からマイレール意識の醸成による日常利用の創出について、沿線市町村と認識を共有したものが示されました。具体策として、まず自治体職員が公務移動で肥薩線を利用すること、そして沿線住民が利用しやすい様に、住民専用フリーパスの作成や駅を中心に2次交通の再編、運行等、乗ってこそその肥薩線という形を作っていく。さらに未来に向け、地域に未来を担う子供たちの意識をあげていく取組を行うこと、以上について観光振興とあわせた二本柱でしっかりと取り組んでいくということが報告されました。これを受け、JR九州から地域の方々のマイレール意識を醸成するための決意と具体策について、整理ができたと受け止めが示されました。その上で、JR九州より4つの項目、1つ目、上下分離方式の採用、2つ目、観光と日常利用の創出の具現化、3つ目、2つ目の取組を運行開始前に実行または実行できる状態にしておくこと、最後に復旧や運営のあり方、数値目標の設定等についてしっかり協議し可能な限り具現化していくことについて、熊本県と今回整理したことが示されました。JR九州としては、この整理のほか、本日の熊本県・沿線自治体からの決意、すでに示されている復興方針案のほか、河川・道路との事業間連携や災害復旧補助の活用を前提とすることを考慮し、今回、熊本県との間で八代・人吉間について、鉄道で復旧する方向で合意することとなりました。なお、今後整理事項については深度化し、今年度末までに鉄道の復旧について最終合意を目指すこととなりました。以上について、この後説明いたします。